

青森県立郷土館の小・中学校を対象とした移動博物館についてⅢ

佐藤 琢¹⁾

A Report of the Delivery Lecture for Elementary School and
Junior High School at the Aomori Prefectural Museum III

Taku SATO

key words : 教育普及、移動博物館、出前授業、博学連携

1 はじめに

小学校学習指導要領は平成 20 年に改訂され、平成 23 年度から完全移行となった。今回の改訂では大きな単元の移動があり、当館で行っている移動博物館・出前授業の依頼がある学年や時期などもそれに伴って変化することが予想される。学年が変われば解説の仕方や解説と体験の比率、場の作り方を適切なものに変える必要があるし、時期の変更は依頼件数に大きく影響する可能性が高い。今年度は変更になった3学年とまだ学習していない4学年が混在しており、昨年度までの依頼状況と比較することで来年度以降の変化について調べてみたい。

2 単元について

「青森県立郷土館の小・中学校を対象とした移動博物館について」渡辺(2008)、及び「青森県立郷土館の小・中学校を対象とした移動博物館についてⅡ」佐藤(2009)で移動博物館についてのアンケートを分析した結果、最も多く依頼されているテーマが「古い道具と昔の暮らし」であることがわかっている。そこで新たに平成 22、23 年度のデータを加え、それぞれの年度に行った移動博物館の中でそれぞれのテーマが占める割合を比較したものがグラフ 1 である。平成 22 年度もそれ以前と変わらず「古い道具と昔の暮らし」のテーマが依頼全体の8割を占めており、平成 23 年度では9割に達していることがわかる。今回の指導要領の改訂ではこの内容を含む単元を扱う時期が大きく変わり、教科書では4学年の2学期から3学年の3学期へと移動している。この単元を扱う学年と時期が変わったことにより、出前授業に大きな影響があることは間違いない。来年度以降に起きるであろう出前授業の変化を、学年の変化と時期の変化の両面から考えてみる。

3 学年が変わったことによる出前授業への影響

グラフ 2～グラフ 8は、平成 23 年度から平成 17 年度に「古い道具と昔の暮らし」のテーマで出前授業を行った学年と月ごとの件数を表したものである。平成 23 年度については12月までは実際に実施した数を、1月～3月は予定数を使用している。これらのグラフを比較すると平成 23 年度では3学年、4学年の両方から依頼があるが、それ以外の年度ではほぼ全てが4学年の依頼である。これらの事柄をグラフ 1の結果と併せると、学年の変化にかかわらず出前授業で依頼されるテーマの大半は「古い道具と昔の暮らし」であり、その単元が教科書で設定されている学年からだけ依頼が来ると考えられる。したがって、移行2年目となる平成 24 年度からは全ての依頼が3学年からのものとなることが予想される。今年度は3学年、4学年の両方に前出授業を行っているが、今までの解説が4学年の児童に向けたものであるため、3学年ではよりわかりやすい言葉や比喻表現を選んだりと試行錯誤しながら解説している。また、教科書では昨年までより体験を重視したものとなっているため、来年度以降の依頼が3学年中心になるとすれば、改めて出前授業の解説の内容や体験のあり方を見直す必要があると考えられる。

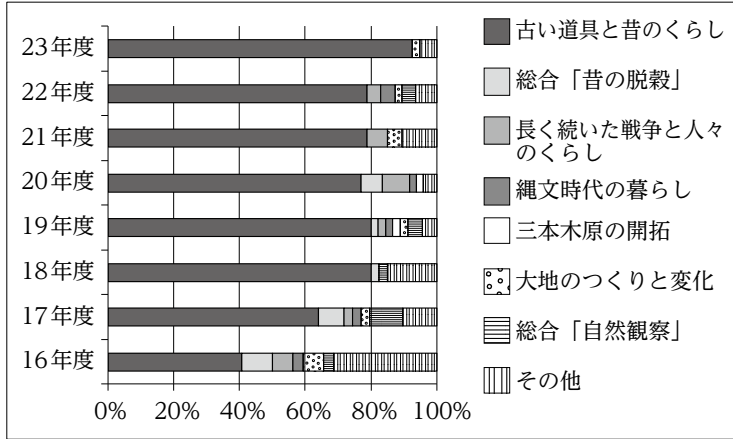
4 時期が変わったことによる出前授業への影響

次に時期の変化についてグラフ 2～グラフ 8を比較する。4学年ではどの年度も9月か10月の件数を最大として、だんだん減少しながら12月まで続いている。このように件数が変化する理由は、「古い道具と昔の暮らし」が従来は4年生の2学期前半の単元であるため、8月下旬及び9月から予約が埋まり、日にちがなくなると、授業が終わってからでもやりたいという希望が多く10月以降の日程が決まるためである。今年度からはこの単元は3学年の3学期へと移動するため、グラフ 2のように1月から2月にかけて依頼が集中しているのがわかる。この結果から、依頼が集中するのは教科書で設定された時期であり、単元移動を行い混雑期をさける事例は少ないことがわかる。したがって、2学期に行く場合に比べ3学期は期間が短いことや、3月は年度末であり卒業式の練習などで体育館の利用も制限があって実施できず、1月後半と2月にだけ依頼が集中することも予想される。この場合利用件数が激減することも考えられるため、来年度以降は、単元の交換などで3学期以外に出前授業を行うよう呼びかけていく必要があるのではないだろうか。

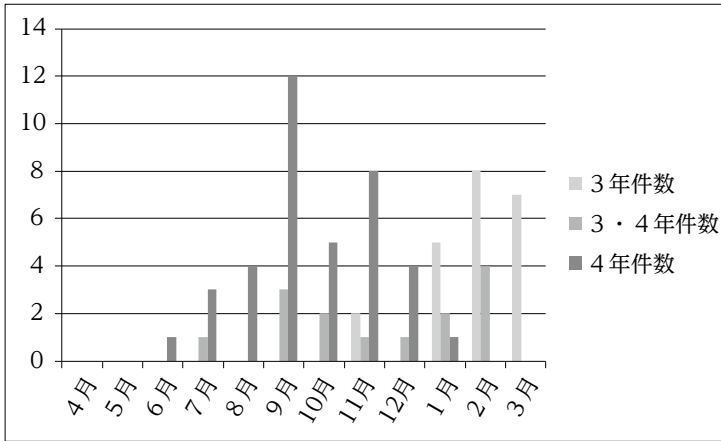
1) 青森県立郷土館 研究主査(〒030-0802 青森市本町2-8-14)

5 おわりに

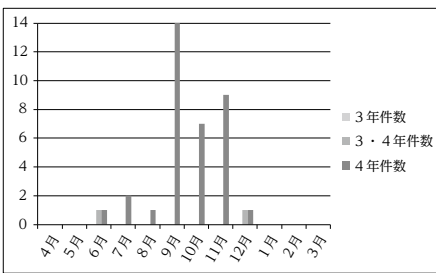
来年度以降の移動博物館・出前授業では、3学年の児童を主な対象とすることがほぼ確定していると言えるだろう。それによってより効果的な、学校側の狙いを達成できるような内容となるように解説の内容や体験についても見直しが必要となる。また、出前授業を行う時期も道路状態の悪い冬季に集中することが考えられるため、4月当初からのPRが欠かせないものとなる。来年度始まってみなければわからない部分も多いが、今までのように満足してもらえるような移動博物館・出前授業を目指して努力していきたい。



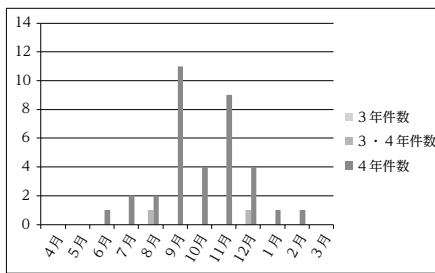
グラフ 1 テーマ別実施件数の割合



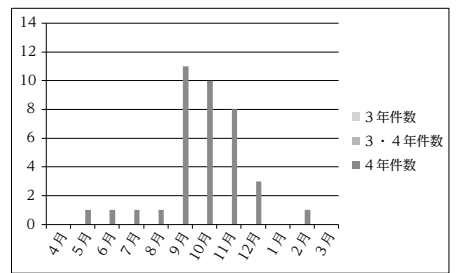
グラフ 2 平成23年度月別件数



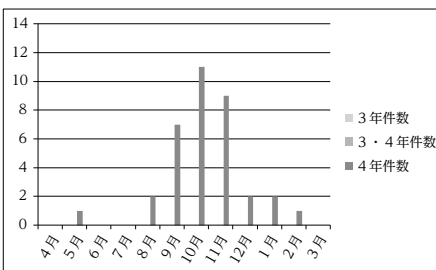
グラフ 3 平成22年度



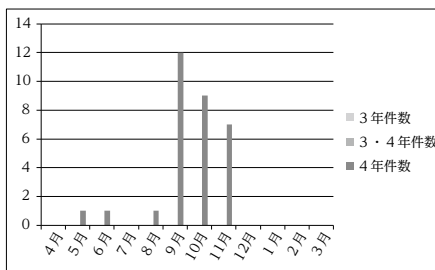
グラフ 4 平成21年度



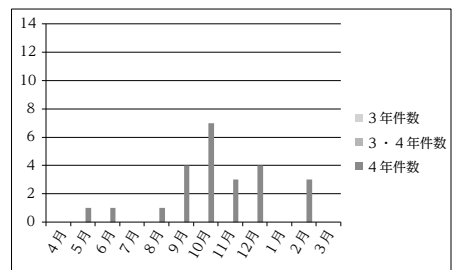
グラフ 5 平成20年度



グラフ 6 平成19年度



グラフ 7 平成18年度



グラフ 8 平成17年度